

はじめに

「COPITA 式施工管理要領」の作成に当たって

「杭基礎施工便覧」（平成 19 年 1 月，（社）日本道路協会）で、既製コンクリート杭の中掘り杭工法（セメントミルク噴出攪拌方式）については、4 工法が具体的工法例として掲げられています。その施工管理項目や管理手法は工法毎に決められてはいるものの、管理のポイント等が工法毎に異なっているのが実情です。一方、載荷試験のデータなども追加された工法や、新しい施工管理手法を取り入れられたものも登場しており、全体的に見直す時期でもあると思われま

す。平成 20 年には、（独）土木研究所 構造物メンテナンス研究センター 橋梁構造研究グループより「道路橋基礎に中掘り杭工法、プレボーリング杭工法を適用する場合の施工管理記録について」が示され、これに記載されている施工管理項目について、管理手法等の確立が必要な時期に来ております。

さらに、平成 24 年 3 月には、道路橋示方書・同解説が改定されました。今回の改定では、必ずしも全ての管理項目を直接的に検査できるものではないことから、施工管理方法をプロセス管理することで要求品質を担保することとし、合せて検証できることとしています。

そして、これまでの施工事例等から具体的事象として

- ・試験杭を重要視し、「施工管理上の必要、重要事項を決定する」という位置づけとした
- ・杭頭保持を重要施工管理ポイントとし、保持時間を管理することとした
- ・現場溶接継手部に関する管理を強化した
- ・施工トラブルに関する要因等も記載した

などが大きなポイントとなっており、施工管理面でも強化された内容となっております。

これらのことを鑑み、この度、社団法人 コンクリートパイル建設技術協会（以下「COPITA」という）にて統一した施工管理要領を作成いたしました（ただし、根固め部仕様の詳細等は各工法の施工指針によるものとする）。この施工管理要領に対応や準拠が可能な工法については、今後土木分野への展開を見据えながら、各種試験データをまとめ、道路橋示方書改定内容にも対応できるよう、逐次取り扱いについて検討を加えていきたいと考えます。

2012 年 3 月

社団法人 コンクリートパイル建設技術協会

「COPITA 式施工管理要領」の改訂（第 2 版）について

このたび、COPITA 会員会社（以下「会員会社」という）が関わった工事において、不適切な工事（管理）により、基礎杭工事、ひいては建設生産物に対する国民の信頼を大きく損ねる事象が発生致しました。

また、「杭基礎施工便覧」は平成 27 年 3 月に改定され、公益社団法人 日本道路協会から発刊されています。

これに対し、COPITA は、再発防止対策およびさらなる施工品質の向上を目指し「既製コンクリート杭の中掘り杭工法（セメントミルク噴出攪拌方式）COPITA 式施工管理要領」を改訂致しました。

今後、COPITA では、既製コンクリート杭の施工に関し、会員会社が共通認識とすべき技術、品質の確保・向上、施工管理の強化、施工記録の重要性の認識など、更なる普及に向け最新の情報・技術を発信、周知するのみならず、新たに施工に関わる者の倫理規定も設けて、業界全体で社会の信頼回復に努めてまいります。

2016 年 9 月

一般社団法人 コンクリートパイル建設技術協会